

兵庫地方最低賃金審議会

第2回鉄鋼業専門部会

議事録

日 時	令和7年9月16日(火) 15時24分～16時52分			
場 所	兵庫労働局 第3共用会議室			
出席者	公益代表委員	三上部会長、高階委員		
	労働者代表委員	小西委員、藤田委員、村上委員		
	使用者代表委員	井上委員、篠田委員、吉川委員		
	事務局	岡本労働基準部長、安積賃金室長、山本賃金指導官、 山中労働基準監督官、村田労働基準監督官		
議 題	(1) 兵庫県鉄鋼業最低賃金に係る改正決定の審議について (2) その他			
○山中労働基準監督官 ただ今から、第2回兵庫県鉄鋼業最低賃金専門部会を開会します。 本日は、坂本委員が御欠席ですが、最低賃金審議会令第6条第6項の規定による定足数は充足しておりますことを御報告いたします。 本日の審議は議事を公開することとしておりましたが、傍聴希望の申出はありませんでしたので御報告いたします。 では、この後の進行につきましては、部会長にお願いいたします。				
○三上部会長 それでは、議題に入りたいと思います。 前回8月27日の専門部会において、全会一致で「改正の必要性有り」との決議を行いましたので、本日は、議題(1)「兵庫県鉄鋼業最低賃金に係る改正決定の審議について」で、金額の審議となります。 今までの審議の中でお話しいただいている部分もあるかも知れませんが、まず、労使それぞれから金額審議に当たっての金額提示及びその理由等を御発言いただき、そこから審議を進めていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。 最初に労使それぞれの意見調整の時間は必要でしょうか。				

○小西委員

お願いします。

(労使委員別室で打合せ)

○三上部会長

それでは、審議を続けます。

では、申出をいただいた労働者側委員から理由とともに金額提示をお願いします。

○小西委員

それでは説明します。

前回の必要性審議の中で、労側からは、消費者物価の継続的な上昇等に伴う最低賃金近傍の労働者の生活水準の維持・向上や、今次春闘における大幅な賃上げでの回答状況等を踏まえ、今年度の鉄鋼業の最低賃金改定の必要性を主張いたしました。

また、兵庫県内の鉄鋼業の魅力向上と人材確保の観点では、兵庫県地域別最低賃金 1,116 円、プラス 64 円との優位性の確保等を考慮した改定が必要と考えています。

さらに、今年の春闘においては、兵庫県の多くの鉄鋼業が加盟する基幹労連においても、大幅な賃上げが実現するとともに、各社での最低賃金改定も進められています。

この大幅な引上げは、鉄鋼業における足元の不透明な環境にある中にも関わらず、各企業の発展と強化に向けた「人への投資」の必要性はもとより、昨今の物価上昇への対応について使用者側の理解が示されたものと受け止めています。この労使の懸命な努力により実現した賃上げの流れを、鉄鋼業に関わる労働者へも波及させることができ、鉄鋼業の魅力を高めるとともに、そこで働く人々の生活の安定、経済の好循環の流れにつながるものと考えます。

以上を踏まえ、具体的な改正額につきましては、今回申出時に提出した最も低い金額 1,294 円への到達を目指しつつも、現行の鉄鋼業の環境等も踏まえ、段階的な到達として、現行 1,116 円に対し、積上げ額プラス 84 円の合計 1,200 円を提示いたします。

以上、今回の改正額について考え方を述べさせていただきました。

鉄鋼業は日本の基幹産業として、今後も経済・産業をリードしていく立場にあり、ここ兵庫県においても、鉄鋼業の中心都市として大きな役割を担っています。また、産業の魅力を高め、技術・技能の伝承、人材の確保・定着など将来にわたる発展と成長を見据えるとともに、鉄鋼業特有の専門性や厳しい環境での作業に見合う水準であることが必要と考えます。

今回の改正額に対し、我々に与えられた責務を今一度労使で再認識するとともに、労使のイニシアティブを發揮し、議論を深めて参りたいと考えており、使用者側のより一層の御理解・御協力をお願いいたします。以上です。

○三上部会長

それでは次に、使用者側委員からお願いします。

○篠田委員

使用者側から御説明させていただきます。

前回御説明させていただいたとおり、中央および兵庫県での地賃の議論や所々の現状を踏まえるということ、それから鉄鋼業の実態・同業種との関係性を着目しながら引上げ額の程度を慎重に今回検討して参りました。

加えて、この特定最賃では前回も申し上げましたが、我々使用者側が一番大事にしたいと考えているのは経営に影響を与える中小企業の方々、ここに我々としては思いを中心に置きたいと考えております。

中小企業のことを思い、重視したいということと、引上げ額の根拠、なぜこの金額にしたのかの点にこだわって検討して参りました。

前回の部会で事務局から御説明・配布いただいた資料を改めて見ますと、県下で一番鉄鋼業の労働者数が多いのは阪神地区でなく播磨地区であることをまず皆さん御認識いただきたいと思っております。データで約 54 パーセント、詳細は割愛しますが、前回の資料であったと思います。

鉄鋼業の労働者が多い中播磨地区において鉄鋼業の景況感を述べたコメントがございましたが、「よくない」というコメントであったと認識しております。加えまして、兵庫県の鉱工業指数の生産指数・出荷指数ともにいずれも対前月比マイナスという数字であったと認識しています

前回日本経済・世界等マクロの視点で鉄鋼業の経済状況を述べさせていただきましたが、前回御説明いただいた資料を見まして兵庫県の鉄鋼業は全体として足元は良くないという状況を改めて認識したところでございます。

以上、我々が考える鉄鋼業が置かれている最新の状況のもと、具体的な金額提示は前回述べましたとおり非常に慎重にならざるを得ないと考えております。

具体的には地賃のところで議論に出ました、令和 7 年の賃金改定状況調査、別表第 4①の製造業 B ランクの一般労働者及びパートタイム労働者の賃金上昇率が 2.2 パーセントという数値がございます。

いろいろな数字を前回御提示いただきましたが、我々としては今回この数字が一番実態に踏まえた数値に近いのかなという認識で、具体的には 1,116 円から 2.2 パーセント引き上げまして 1,141 円、プラス 25 円で今回使用者側から御提案させていただきたいと思っております。以上です

○三上部会長

労使双方より、金額提示とそのお考えをお聞きしました。

労働者側は、84 円引上げの 1,200 円、使用者側は 25 円引上げの 1,141 円という御主張でした。

労使双方の基本的な提示額をお聞きしましたが、その金額に開きがありますので、これから審議を続けていき、その金額の開きを詰めていきたいと思います。

では、最初に公益側と申出いただいた労働者側とでお話しをさせていただき、その後、使

用者側とお話しさせていただきます。

(別室で公労会議、公使会議)

○三上部会長

皆さん御苦労様でした

労使からそれぞれの考え方をお聞きして、さらに使用者側委員と議論しましたが、結論的に言いますと今日数字を双方が再提示して隔たりを埋める段階でなく、検討する問題が多々あるということです。

今日はそれぞれの考え方を示したということで持ち帰っていただき、次回に改めて考え方、数字を整理していただいて、合意を目指すことにしたいと思います。

労働者側の考えは労働協約の最低ラインの1,294円が昨年から7.5パーセント上がっているのがひとつの根拠で、1,116円の7.5パーセントが84円で、1,116円プラス84円が今回提示の1,200円であるとしました。

使用者側は、最低賃金は労働市場の価格で決めるのではなく、生活を守るための最低ラインを決める議論であるので労働市場の価格は議論にそぐわないということでした。

使用者側の実感としては春闘の頃からこの夏の経済状況を踏まえ、特に兵庫県の製造業はやや悪くなっているという実感があるので、そのなかで今回の労働者側の提案、特に地賃の引上げ幅よりもまだ高い数字についてはいろいろ疑問があるという考え方で、労働者側にもう少し降りてきもらわないと議論ができないということでした。

一方で、労働者側は業界の優位性をきちんと担保することでは、使用者側が提示した25円で優位性を担保したと言えるのか、考えて欲しいということでした。

双方とも考え方をお聞きしたところ、数字を考える余地があるとお聞きしましたので、どこまで歩み寄れるかという議論になるかと思うのですが、次回改めてお考えをお聞きした上で、それに基づく数字を再提出していただいて、それで再び労使がイニシアティブを取り、隔たりを埋めていく議論をつなげていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○労使委員

はい。

○三上部会長

そういうことで今回はここまでにして、いったん審議を終了したいと思います。

では次回の日程等について、事務局から説明をお願いします。

○安積賃金室長

はい。次回の日程についてご提案させていただきます。

次回は9月26日金曜日午後3時からで予定しておりますが、よろしいでしょうか。

○各委員

はい。

○三上部会長

では次回は、9月26日金曜日午後3時からの開催とします。

次回は金額審議の2回目となります。引き続き公開とします。次回の審議に臨むにあたって、労使それぞれでしっかりと意見調整をお願いしておきます。事務局は他に何か連絡事項はありますか。

○安積賃金室長

特にございません。

○三上部会長

本日の審議は、これで終了とします。御苦労さまでした。

<終了>

三上 喜美男

小西 啓介

吉川 和宏